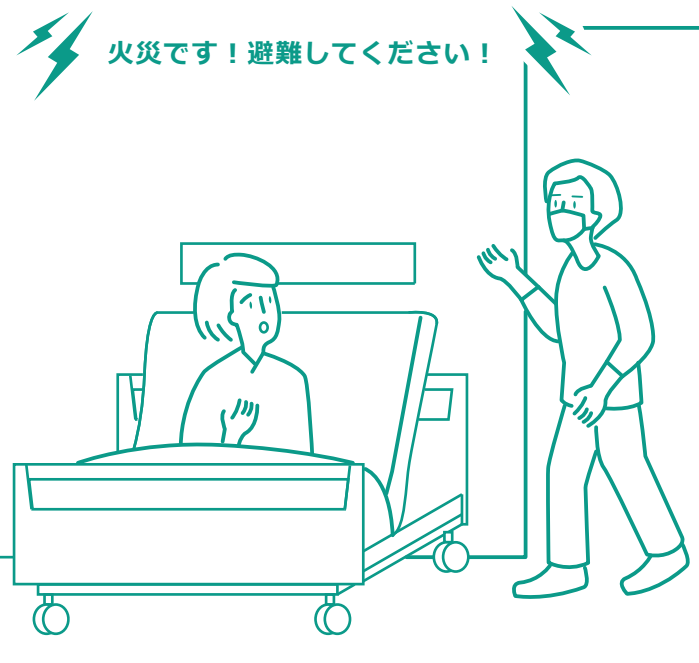
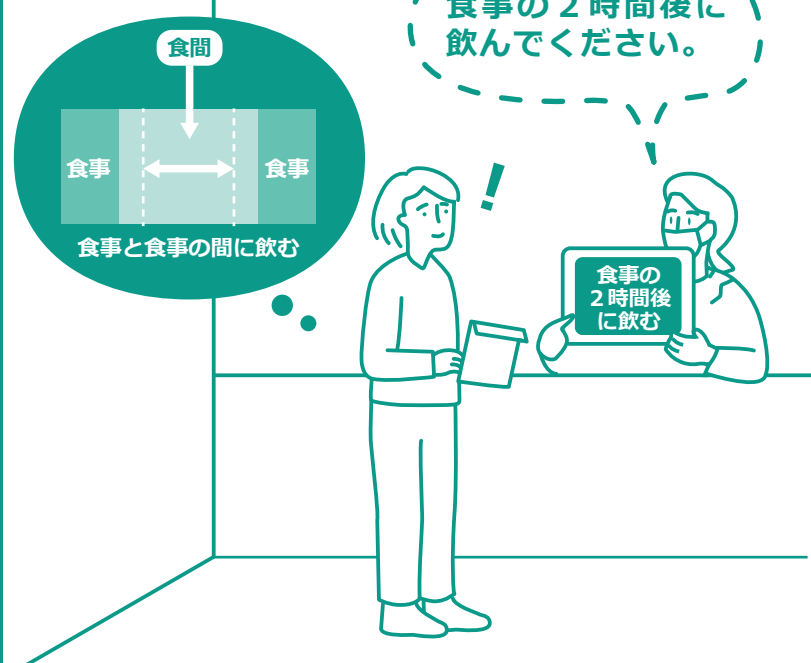


非常時の対応



薬局



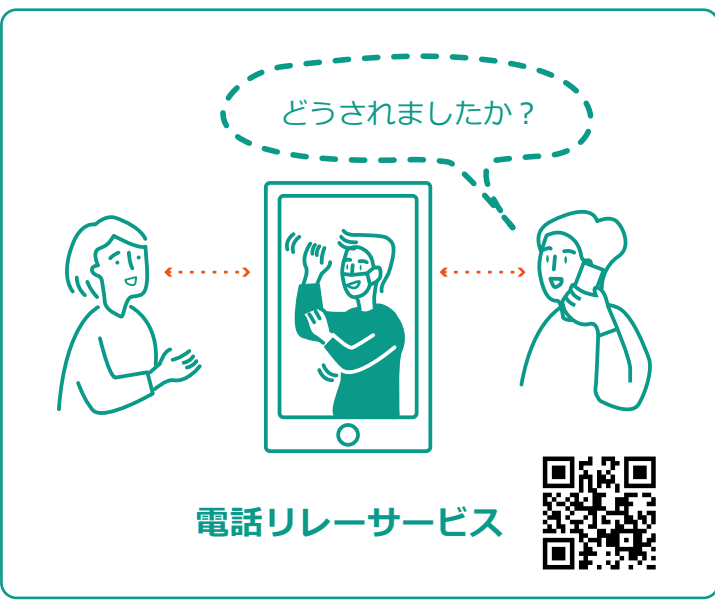
必要な情報を的確に伝えてください。
地震や火災などの非常時には、緊急放送が聞こえず避難が遅れることがあります。個別に必要な情報を的確に伝えてください。

用語をかみくだいて説明してください。
「食間」は「食事中に飲む」、「座薬」は「座って飲む薬」といったように誤解する可能性がありますので、具体的に表現してください。重要なことはメモを残して渡してください。

連絡方法

連絡方法は、FAX、メール、電話リレーサービスの活用などがあります。希望の連絡方法を本人に確認してください。

ろう・難聴者への対応やお困りごとを聴覚障害者情報提供施設に相談することも可能です。手話通訳・要約筆記のお問い合わせや派遣依頼は市町村の保健福祉課に相談してください。



作成・お問合せ先：令和3年度厚生労働省科学研究費補助金がん対策推進総合事業「障害のあるがん患者のニーズに基づいた情報普及と医療者向け研修プログラムの開発に関する研究」班
研究代表者 八巻知香子
国立がん研究センター がん対策情報センター がん情報提供部 医療情報評価室
E-mail: medinfo-disability-sec@umin.ac.jp

医療従事者のためのサポートガイド

『ろう・難聴者（聴覚障害者）の方が病院に来院されたら』

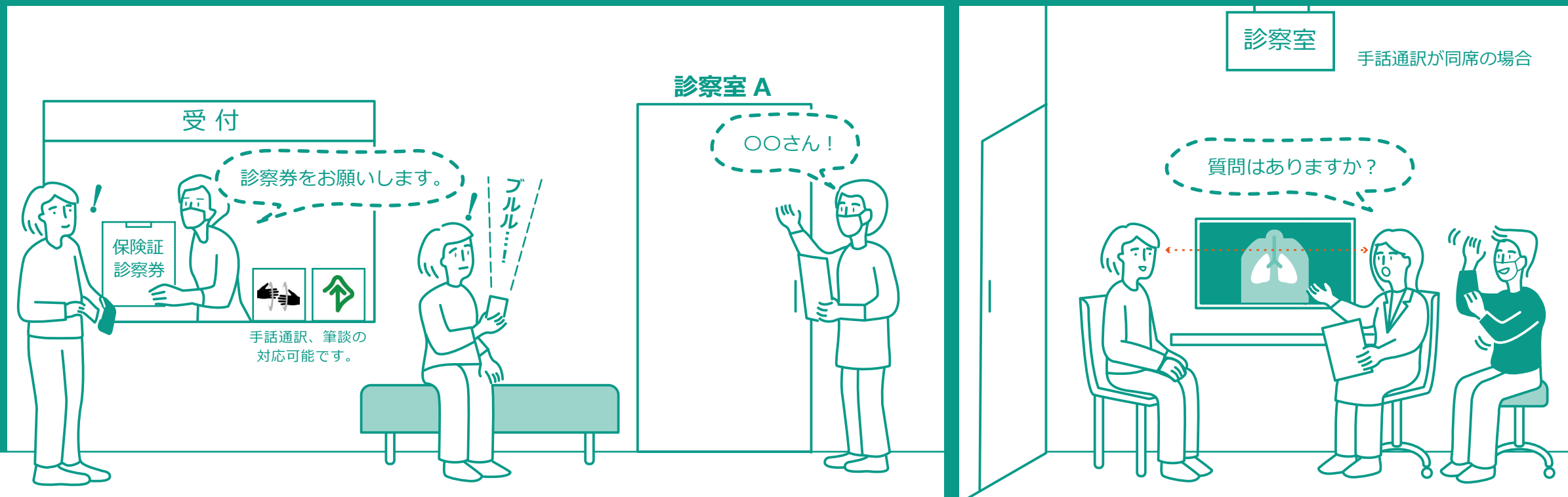


コミュニケーション方法や必要な配慮は、聞こえ方や育った環境により、一人ひとり異なります。

聞こえ方や程度	言語	必要とされる配慮
<ul style="list-style-type: none"> ●ろう者 ●難聴者 ●中途失聴者 <p>生まれつき聞こえない人、大人になってから聞こえなくなった人、補聴器や人工内耳を使う人、そうでない人など、聞こえ方や程度は人によって異なります。また、自身のことをどう表現するか、アイデンティティも異なります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●手話 ●日本語（文字） ●日本語（音声） <p>育った環境や生活環境により、使用言語は一人ひとり異なります。場面に応じて、適した伝え方・受け取り方が異なる場合があります。本人に普段使っている言語や希望する言語を確認しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●通訳（手話、要約筆記） ●筆談、イラスト ●非言語的伝達 <p>…etc. 聞こえ方や程度・言語などで必要とされる配慮が異なります。手話通訳、要約筆記通訳や、筆談、イラストや画像の併用といった視覚情報、顔の表情等の非言語的伝達法など、様々な場面を想定し、本人に何が必要か確認しましょう。</p>

病院で必要な音声情報を 個々の状況に適した方法で伝え、 スムーズで安全な医療提供を。

病院内では、対面での会話だけでなく、何か近づいてくる音、館内放送や視線を合わせない呼びかけなど、様々な音を使って情報のやりとりが行われています。音の存在に気がつかなければ伝達も始まりません。障害の有無に関わらず、必要な情報を円滑に正確に届けられるよう、一人ひとりの意向に留意した適切な伝達方法と配慮が求められます。



配慮の申し出がしやすい環境と体制づくり

受付などに視覚的に提示できる情報を用意。よく聞かれる質問や想定される会話はあらかじめカードなどを用意。手話や筆談で対応可能であることが一目でわかり、ろう・難聴者が安心して利用することができます。



患者を呼ぶときには音以外の情報で伝達

バイブレーション、電光掲示板、番号札の活用だけではなく、直接呼びに行き、手を振ったり、目を合わせたりするなど、気がついてもらえるように対応してください。

患者の目を見て話すことが基本

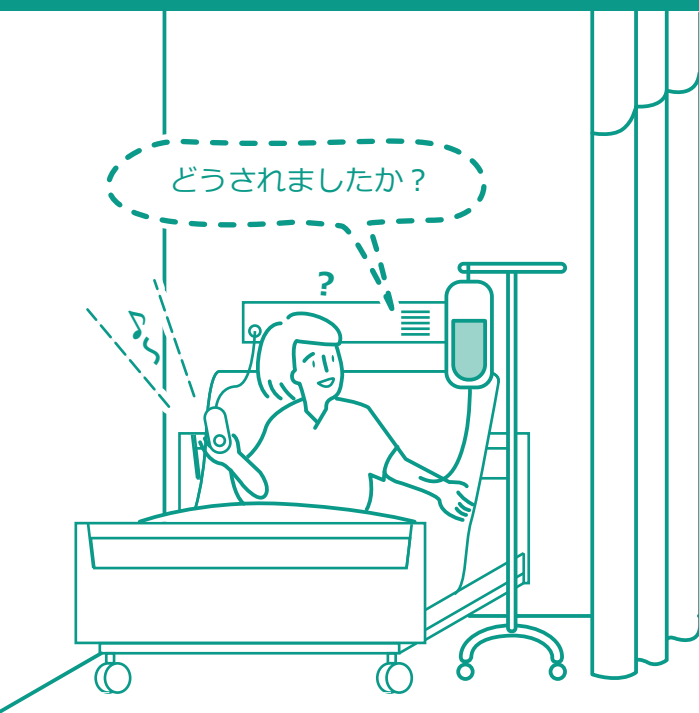
医療従事者は通訳者ではなく、患者の目を見て、十分に理解できているか表情を確認しながら説明しましょう。質問を促す声かけも重要です。口頭での説明に加え、検査結果や治療方法を説明する視覚情報があると、より正確に伝わります。

レントゲン室



意思疎通しにくい場所では伝達の工夫を

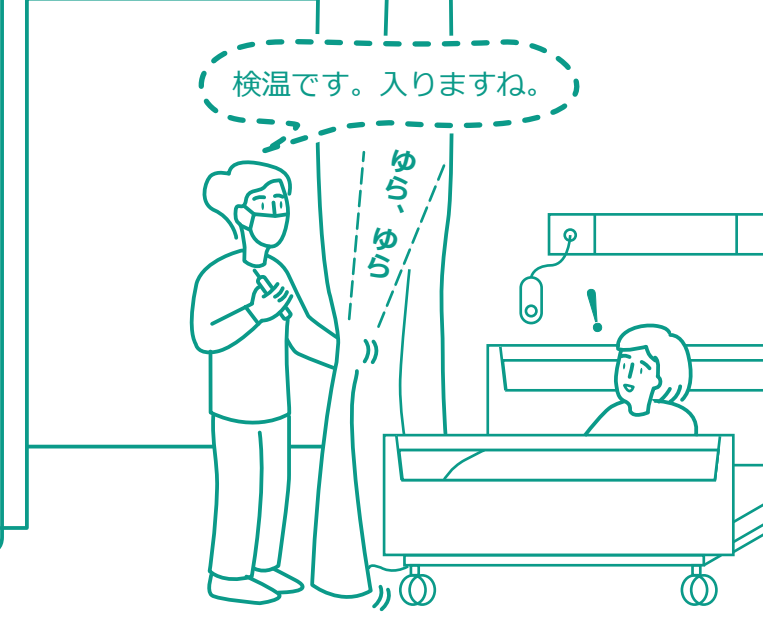
暗い場所（レントゲン室やエコー室など）やアイコンタクトが取れない場面（遠隔での指示や目の検査など）では、事前に検査内容や所要時間、指示のタイミングなどの打ち合わせをしてください。



手話や筆談ができないケースも考慮を

点滴やモニターの装用などで手腕が使えないと、手話や筆談ができず、意思表示が困難になります。事前にコミュニケーション方法を確認してください。ナースコールは応答が困難です。呼ばれたらすぐに駆け付けてください。

病室



病室に入室する際には配慮を

患者が驚かないように、カーテンを揺らす、点灯するなど事前に入室を知らせて下さい。気が付かない場合は肩を叩くなどの対応を。また、緊急時など、院内のアナウンスが伝わるように、個別に必要な情報を伝えてください。



胃カメラの検査

いつ：明日の朝8時
どこ：地下1階〇〇
注意：朝6時以降
飲食NG

筆談の際のポイント

筆談は、短い文章で、明確に・丁寧に、ペインスケール、指さしカードや、口元が読み取れる透明マスクも役立ちます。